それいけ！ やいづ号

～焼津漁港を探検してみよう～

１　焼津漁港について

○　水揚げ全国２位の焼津漁港　・・・　１

○　焼津・新港・小川地区　・・・　２

○　漁港の種類・静岡県の漁港　・・・　３

２　焼津漁港管理事務所の仕事

○　漁業を支える仕事　・・・　４

○　人や建物などを守る仕事　・・・　５

○　楽しい漁港にする仕事　・・・　６

○　漁港を維持する仕事　・・・　７

○　他の機関が管理している施設　・・・　８

○　空から見た焼津漁港　・・・１０

○　焼津漁港の歴史　・・・１１

令和７年８月

静岡県焼津漁港管理事務所

焼津漁港について

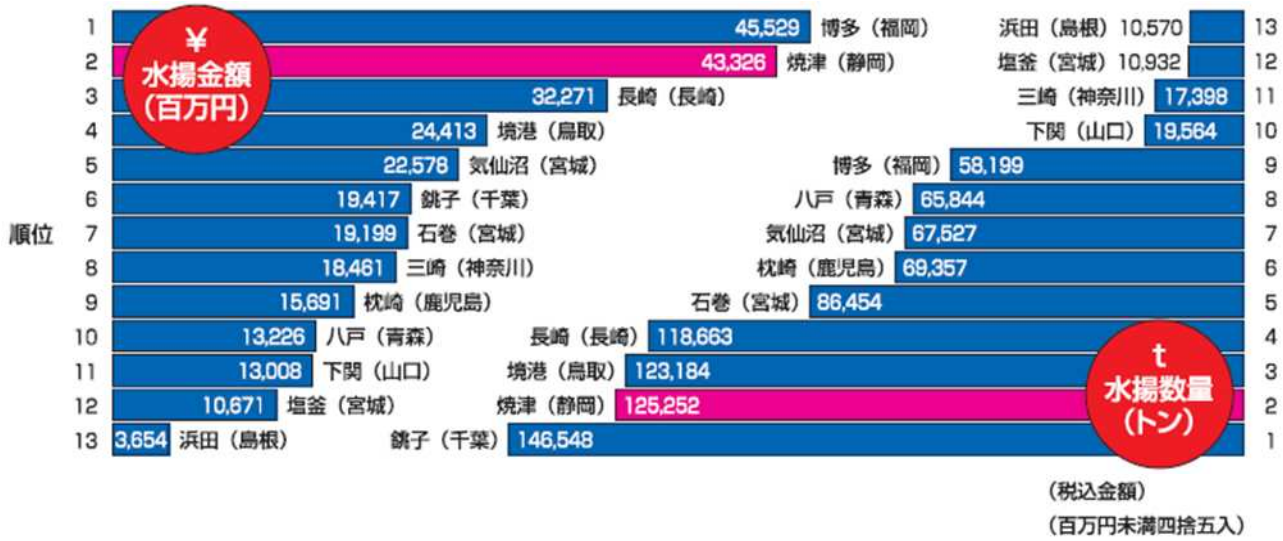
水揚げ金額全国２位の焼津漁港

焼津漁港は、カツオ・マグロの遠洋漁業の基地として有名です。

東名高速道路や新東名高速道路を使って、東京などの大都市に魚を早く運ぶことができます。また、漁港の中の波が静かなため、安全に水揚げ（魚を船から降ろすこと）ができます。冷蔵庫や加工場などの施設が整っているため、水揚げ後もとても便利で、新鮮なうちに商品にすることができます。

このような理由で、全国から漁船が集まり、たくさんの魚が水揚げされています。令和６年の焼津漁港の水揚げ量は１２万５千トン（全国２位）で、水揚げ金額は４３３億円（全国２位）を誇ります。

●令和6年全国主要漁港(特定第3種)水揚高



（税込金額）
（百万円未満四捨五入）

焼津地区と新港地区と小川地区

焼津漁港には、「焼津地区」と「新港地区」と「小川地区」があります。

焼津地区

主に遠洋漁業（海外まき網漁船）の基地となっています。海外からきた760トン級の大型の漁船も泊まれるようになっており、カツオやマグロが多く水揚げされます。

新港地区

主に遠洋漁業（マグロ延縄・カツオ一本釣漁船）の基地として、平成13年から水揚げができるようになった比較的新しいエリアです。漁港関係者以外の方でも楽しめる施設があります。

小川地区

主に沿岸漁業や沖合漁業の基地として栄えてきました。サバやアジが多く水揚げされ、船の点検や修理をする造船所もあります。

遠洋漁業…遠く離れた地域（海外など）で、数週間から数か月間行われる漁業
沖合漁業…遠洋漁業と沿岸漁業の中間
沿岸漁業…陸（海岸）から近い海で、日帰りで行われる漁業

漁港の種類

漁港には、魚を積んだ漁船がたくさん出入りしています。漁港とは、漁業活動の中心となる港です。漁港は、漁船の利用範囲によって、次の表のように分けられます。

漁港の種類	漁船の利用範囲
第１種漁港	主に地元の漁船が利用する港
第２種漁港	第１種よりも広い地域の漁船が利用する港
第３種漁港	全国の漁船が利用する大きな港
特定第３種漁港	第３種漁港のうち、水産業を盛んにするために特に重要な漁港 焼津（静岡県）、八戸（青森県）、塩釜・気仙沼・石巻（宮城県）、銚子（千葉県）、三崎（神奈川県）、境（鳥取県）、浜田（島根県）、下関（山口県）、博多（福岡県）、長崎（長崎県）、枕崎（鹿児島県）
第４種漁港	遠く離れた島などにあって、急に海が荒れたときに漁船が避難したり、漁場の開発に必要な港

静岡県の漁港

静岡県には、４８の漁港があります。

●第１種漁港	伊豆半島などの小さな漁港	33
●第２種漁港	吉田、由比など	9
■第３種漁港（特定第３種含む）	焼津、用宗、網代、舞阪	4
●第４種漁港	福田、妻良	2
合　　計		48

焼津漁港管理事務所の仕事

やいづぎょこうかんりじむしょ

漁業を支える仕事

漁業活動が安全かつスムーズに行われるように、岸壁（がんぺき）や防波堤（ぼうはてい）などの整備をしています。

［マイナス９ｍ大水深岸壁（だいすいしんがんぺき）］

焼津地区外港に９ｍの深さがある大水深岸壁をつくりました。

大型の海外まき網船や冷凍運搬船も利用できるようになりました。

［マイナス７ｍ耐震強化岸壁（たいしんきょうかがんぺき）］

焼津地区城之腰（じょうのこし）に７ｍの深さがある岸壁をつくりました。

この岸壁は、東海地震クラス（震度７）の地震にも耐えることができます。援助物資受入の基地にもなります。

［３０号道路］

市場から水産物をスムーズに運ぶために道路を広げました（４車線道路化）。たくさんの人や車が安全に通行できるようになりました。

人や建物などを守る仕事

港や船、そして港で働く人を守るための施設を整備しています。

［焼津外港南防波堤］（やいづがいこうみなみぼうはてい）

防波堤は海からの強い波から港を守ります。

平成１４年から１０年間をかけて防波堤をさらに高くする工事をしました。

写真の白い部分がその時に積んだ消波ブロックです。

［津波緊急待避施設］（つなみきんきゅうたいひしせつ）

地震が発生したときに、漁港で働く人たちは、この施設に登って津波から身を守ります。この施設は、漁港内に４箇所あります。

［陸閘（りっこう）］

地震や津波の際に、港の外側の住宅や市民の人たちを守るため、陸閘と呼ばれる門を閉めます。焼津漁港には、遠方制御できる電動陸閘が７箇所（全部で21箇所）あります。普段は人や車の行き来のために開いています。

［胸壁（きょうへき）］

胸壁は、津波や高潮の海からの強い波から、港の外側の住宅や市民の人達を守ります。

楽しい漁港にする仕事

漁業に関係する人だけでなく、たくさんの人に漁港を楽しんでもらう施設をつくっています。

［親水広場（しんすいひろば） ふぃしゅーな］

海に親しみ、自然とふれあうことのできる親水広場です。

潮（しお）だまりや噴水（ふんすい）、釣りのできるフィッシングゾーンなど、いろいろな楽しみかたのできる広場です。

平成１６年から工事を始め、平成２１年３月に完成しました。

また、平成２８年には多目的砂広場、令和５年には多目的コンクリート広場が完成しました。これら砂広場では、ビーチスポーツやストリートスポーツが楽しめます。

※「ふぃしゅーな」は、英語で「魚」を意味する「フィッシュ」と「なかよし」の「な」を合わせてつくった名前です。焼津市の中学生が考えてくれました。

漁港を維持する仕事

岸壁や道路などの施設ができあがった後は、それらを安全に気持ちよく利用してもらう必要があります。そのために、施設の点検や清掃などをしています。

［焼津漁港内の清掃（せいそう）］

毎日、陸と海のゴミを集めています。清掃船「焼津丸」は、海のゴミを集めるために活躍しています。

令和６年度に集めたゴミの量は、合計で約１８トンです。

活動中の焼津丸

【焼津漁港内の監視（かんし）】

パトロールする監視員

漁港の施設に壊（こわ）れている部分がないかを確認するために、定期的にパトロールをしています。

また、漁港を利用する人や船がちゃんとルールを守っているかを監視しています。

他の機関が管理している施設

焼津漁港には、漁業協同組合や焼津市の施設もあります。

［焼津漁業協同組合（やいづぎょぎょうきょうどうくみあい）の施設］

○超低温冷蔵庫

遠洋漁船で獲ったマグロは、船の上で冷凍して日本に持ち帰り、この超低温冷蔵庫（－６０度）で保管されます。

○焼津魚市場　新屋（あらや）売場

魚市場は、漁船から水揚げされた魚をせりなどで売るところです。水揚げのときに、魚の種類や大きさごとに分ける荷さばきもここで行われます。

［小川漁業協同組合の施設］

○小川魚市場

小川地区にある冷蔵庫や魚市場です。小川地区では、主に沿岸・沖合漁業で獲れたサバやアジを水揚げしています。

［焼津市の施設］

○深層水ミュージアム

駿河湾には世界の海から３種類の深層水（深さ 200mより深いところの海水）が流れてきます。このうち、深さ３９７ｍと２７０ｍのところにある深層水を汲み上げています。

深層水ミュージアムでは、展示物を見ながら、駿河湾や深層水について楽しく学ぶことができます。

○うみえ～る焼津・アクアスやいづ

うみえ～る焼津には、新鮮な魚貝類や水産加工品のお店、レストランが集まっています。隣のアクアスやいづは、深層水を利用したタラソテラピー施設です。

※タラソテラピー･･･海の良いところを生かして、心や体をいやす方法

空から見た焼津漁港

■・・・緊急待避施設
▲・・・陸閘（りっこう）
－9m大水深岸壁
超低温冷蔵庫
焼津外港南防波堤
焼津魚市場新屋売場
－7m耐震強化岸壁
深層水ミュージアム
焼津漁港管理事務所
親水公園　ふぃしゅーな
アクアスやいづ
うみえーる焼津
小川魚市場
３０号道路
小川港魚河岸食堂

焼津漁港の歴史

昔の焼津には、漁港(ぎょこう)がありませんでした。漁(りょう)で獲(と)った魚や船の荷物は、沖にとめた本船から伝馬船(てんません)で運んでいました。

浜に揚(あ)げられた魚は、真夏でも露天(ろてん)に並べていたので、傷(いた)みやすく、何度も海水をかけるなどという苦労がありました。

また、港がないため、台風などで海が荒れると、そのたびに船を守るため清水港などへ避難(ひなん)しなければならず、とても大変でした。

昭和の始めころの漁船の様子

昭和の始めころの市場の様子

漁船にエンジンがつき、大きくなるにつれて、魚の水揚(みずあ)げ量も増加しました。そのため、漁港の必要性は高まり、焼津の人たちの「港を作りたい」という願いは、いよいよ強くなりました。

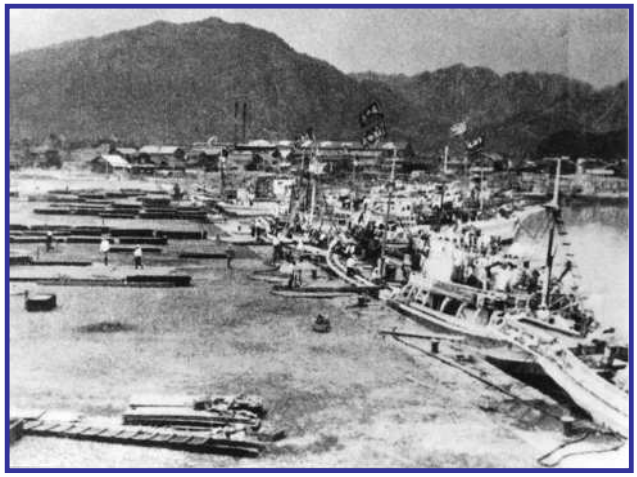
当時の焼津町長や漁師、水産関係の人たちが、何度も国や県に港をつくってほしいとお願いに行きました。そして１９３９年（昭和１４年）、ついに港をつくることが国会で決まり、港をつくる工事が始まりました。

しかし、その後に始まった戦争のため、工事は、一時中断しなけ

ればなりませんでした。

　また、焼津にあったたくさんの漁船が戦争のために使われてしまい、多くの船が沈没し、おおぜいの乗組員（のりくみいん）が命を落としました。

　戦争が終わり、世の中が落ち着いてくると、再び漁港をつくる計画が認められ、漁港をつくる工事が再開しました。



整備中の焼津漁港

　漁港づくりは、順調に進み、漁港完成前でも岸壁（がんぺき）ができあがると、次々と漁船が水揚げを行い、水揚げ量は増えていきました。

　こうして、焼津の人たちの念願だった焼津漁港は、１９５５年（昭和３０年）に完成し、「東洋一の漁港」と呼ばれました。

　焼津漁港第１船渠（せんきょ）が完成すると、次々と遠洋漁船が集まりました。そのため、第１船渠は、水揚げする漁船や出港の準備をする漁船ですぐにいっぱいになってしまいました。

　そこで、１９５６年（昭和３１年）には、漁港を広げる工事が始まりました。そして、１９６６年（昭和４１年）に焼津漁港第２船渠が完成しました。

　その後も、大型化する漁船に対応するため、第１・第２船渠に隣接した海を埋め立てて、大型船専用の港（外港（がいこう））をつくりました。

　また、さらに大型の冷凍運搬船が利用できる深い岸壁や、幹線道路（※主な道路）に通じる輸送道路（※人や物を運ぶための道路）もつくりました。

このように焼津漁港は、常に進化してきました。

これからいったいどんな姿に変わっていくのか、皆さんの目で確かめてみてください。

編集・発行

静岡県焼津漁港管理事務所

住所：〒４２５－００３２

焼津市鰯ヶ島１３６－２４

電話：０５４－６２８－３１２６

ＨＰ：http://doboku.pref.shizuoka.jp/desaki2/yaizu/